

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 小林 祖承
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和3(2021)年3月1日月曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

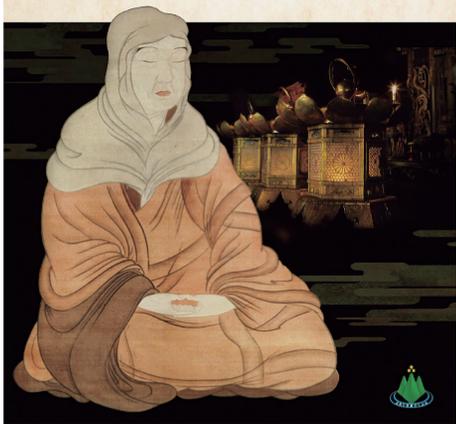
天台ジャーナル



特別展「最澄と天台宗のすべて」

— 東京・九州・京都の国立博物館を巡回 —

特別展
最澄と天台宗のすべて
令和3年(2021年)
10月12日(火)~11月21日(日) 東京国立博物館
令和4年(2022年)
2月8日(火)~3月21日(月・祝) 九州国立博物館
令和4年(2022年)
4月12日(火)~5月22日(日) 京都国立博物館

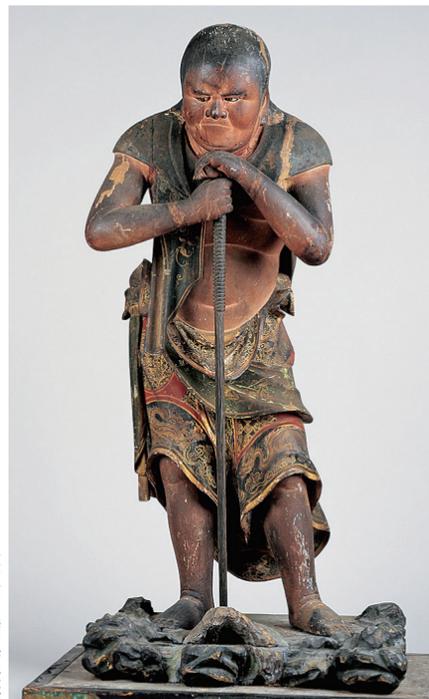


平成23年から祖師先徳鑑仰大法会期間とし、遠忌を迎えた各祖師方に天台宗を挙げて報恩を示す法要や記念事業を展開してきたが、今年は宗祖伝教大師がお亡くなりになられてから1200年を迎えた。
特別展は、その記念とし、令和3年から4年にかけて、東京、九州、京都にある国立博物館で開催する。大規模な特別展開催は、平成17年の天台宗開宗1200年記念「最澄と天台の国宝」以来となる。
出陳予定の寺宝は、兵庫教区一乗寺所蔵の国宝「聖徳太子及び天台高僧像」の全10幅(東京・京都会場のみ)。展示期間未定)や、仏像では三岐教区願興寺蔵の重文「薬師如来坐像」(東京会場のみ)、四国教区等妙寺蔵の

天台宗は、宗祖伝教大師一千二百年大遠忌を迎えた記念事業として、今年10月から令和4年にかけて特別展「最澄と天台宗のすべて」(主催・読売新聞社など)を東京、九州、京都の3つの国立博物館で開催する。延暦寺はじめ全国各寺院所蔵の国宝や重要文化財を含む仏像、仏画、経文などが出陳される予定で、宗派の歴史をたどる貴重な機会となる。

各会場で 特色ある展示に

「菩薩遊戯坐像(伝如意輪観音)」(九州・京都会場のみ)、また東京教区深大寺の秘仏「慈恵大師(元三大師)坐像」は2005年ぶりに寺外公開される。
その他、慈覚大師円仁や恵心僧都源信、徳川家康の側近だった天海大僧正など、各時代で活躍した高僧ゆかりの名宝が展示されるのに加え、全国各地の天台宗寺院が所蔵する国宝や重要文化財を含む貴重な文化財が展示される。
担当する祖師先徳鑑仰大法会事務局の話では、『法華経』の精神を重んじた天台宗は、広範な支持を得て全国に教線が展開されたことから、開催各館の立地や地域性に重点を置き、各会場で特色ある展示になるといふ。また、現在大改修中の延暦寺「根本中堂」の関連文化財の公開も



「護法童子立像」
(比叡山延暦寺蔵)

比叡山延暦寺提供

予定している。
詳細は4月中旬に発表予定。天台宗公式ホームページでも案内する。
会場や期間は左記のとおり。

特別展 「最澄と天台宗のすべて」

- 東京国立博物館
令和3年10月12日(火)
~11月21日(日)
- 九州国立博物館
令和4年2月8日(火)
~3月21日(月・祝)
- 京都国立博物館
令和4年4月12日(火)
~5月22日(日)

極微

ワクチンとは、病原体を基につくって、人や動物の体に接種、体内にその病気に対する抗体を生じさせるものだ。そうすることで伝染病の予防を図るのだ。今、新型コロナウイルスの感染拡大状況下にあることから、ワクチンも急速な開発が求められた。治験も慌たたく行われて、各国で既に接種も始まっている。医療従事者や高齢者を対象に優先的に接種がなされているが、大半の人々に接種が済むのは、相当な時間がかかるだろう。心配な問題はいわゆる副反応であるだろうか。接種を受けた英国や米国で勤務する日本人の医師、看護師の話では、副反応は出るが、さほど心配するほどではないとのことだ。接種するメリットのほうが大きいようである。とはいっても接種に躊躇する人が多いのだから。ワクチンが使用可能になるまで最低でも数年、通常は何十年もかかるそうだから、今回のように一年にも満たない期間で使用されることへの不安であろうか。それだけに、現状でのワクチン接種に不安を覚えるのは無理もないが、例えばイスラエルでは副反応は0.2パーセント台という。それほど案ずることもないのではないか。感染を抑える効果を求めるか、安全性を第一とするか、難しい選択だが、日本はもとより世界のコロナ禍収束のためには一人でも多くの方の接種が望ましいのではないか。